

# 勢多だより

MARCH 31, 2011 No. 89



## 「国際交流」

留学生との交流会「国際交流の夕べ」

新任教員紹介

定年教授のあいさつ

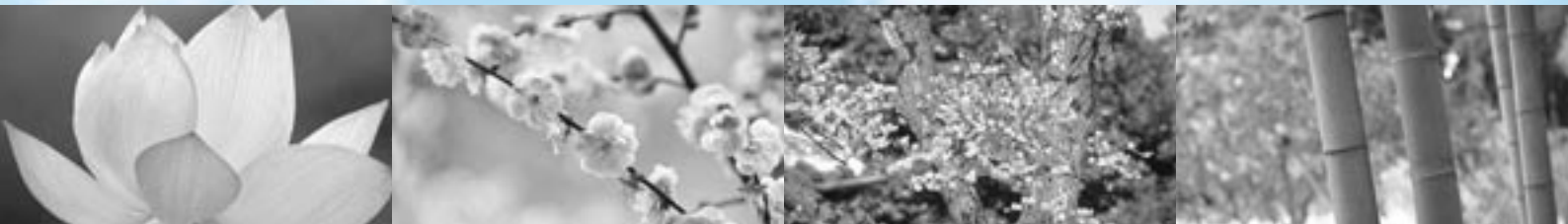
- 外国人留学生等の宿泊見学バス旅行
- 学長と学生との懇談会
- 海外自主研修
- 平成 22 年度 学位授与式



# 勢多だより

MARCH 31, 2011 No. 89

## C O N T E N T S



### メインテーマ：「国際交流」

#### トピックス

- 01 | 留学生との交流会「国際交流の夕べ」

#### 新任教員紹介

- 02 | 病理学講座（分子診断病理学部門） 向 所 賢 一 准教授  
 03 | 総合内科学講座（地域医療支援） 辻 川 知 之 教 授  
 04 | 総合外科学講座（地域医療支援） 来 見 良 誠 教 授

#### 定年教授のあいさつ

- 05 | 「定年を迎えるにあたり」  
 生理学講座（統合生理学部門） 陣 内 皓之祐 教 授

#### キャンパスライフ

- 06 | 外国人留学生等の宿泊見学バス旅行  
 07 | 学長と学生との懇談会  
 08 | 海外自主研修  
 ●ベトナムでの自主研修 医学科第4学年 斉 藤 公 亮  
 ●ケニア自主研修を通して感じたこと  
 医学科第4学年 角 田 秀 樹  
 ●Being in Boston 医学科第4学年 河 野 浩 人

#### 図書館からのお知らせ

- 14 | マニュアル・ガイドを公開しています

#### インフォメーション

- 16 | 平成22年度 学位授与式  
 17 | 平成22年度 学位論文学長賞等授与式  
 18 | 第36回 若鮎祭収支決算報告  
 19 | 平成22年度 研究動物慰霊式  
 20 | 学生入試広報スタッフ募集

#### 編集後記（宮松編集長）

## トピックス

## 留学生との交流会「国際交流の夕べ」



平成 23 年 1 月 12 日(水)に滋賀医科大学に在籍する外国人留学生らとの交流会「国際交流の夕べ」を開催しました。

交流会には、日頃、外国人留学生をご支援いただいている関係団体、ボランティアの方々をはじめ、教職員、学生を含めて総勢 100 名余が集いました。

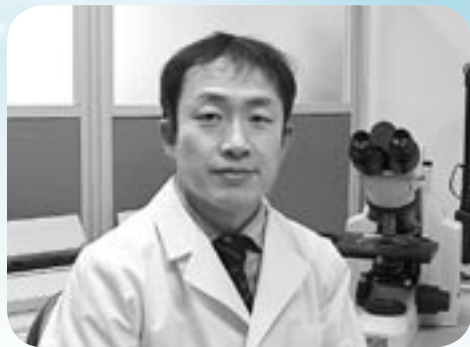
今回は、留学生有志が日本舞踊「ふるさと」と「さくらさくら」を披露してくれました。ボランティアの皆様のご協力により実施している日本文化月例教室で取り組んだ成果の一端です。艶やかな着物姿に、会場も大いに華やき盛り上がりました。

また、本学学生の作法研究会による茶道のお点前披露、アカペラサークルの歌唱、管弦楽団演奏もそれぞれに心のこもった発表で、最後は恒例の参加者全員による「琵琶湖周航の歌」合唱と、和やかなひとときを過ごすことができました。



## 新任教員紹介

## 病理学講座(分子診断病理学部門)



准教授  
向所賢一

平成22年12月1日付で、病理学講座分子診断病理学部門の准教授に就任致しました。滋賀医科大学を14期生として卒業後、当時小玉正智先生が主宰されていた旧第一外科に入局し、大学院入学をきっかけに病理の道へ転向致しました。医学科第4学年のころより現副学長服部隆則先生の教室(旧第一病理)で、PCRを使って癌研究のまね事をさせていただいており、そのころより、将来は服部先生のもとで消化器癌の研究をさせていただく約束でした。大学院2年目のある日、服部先生のご自宅でお酒をいただきながら“うちの助手にならへんか?”と言われ、“お願いします。”と即答させていただいたことが人生の転機だったと思います。基礎医学を専攻する者は、真面目で優秀なイメージがありますが、私は、学問ではなくラグビーを一所懸命やっていた‘ゆるい学生’でした。しかし、なぜか研究の道にお誘いを受けまし

た。病理学講座に入局後は、現分子診断病理学教授の杉原先生に“研究は頭やない、体力や”と勇気づけられ、ラグビー部で培った体力と根性で、何とか現在に至ります。

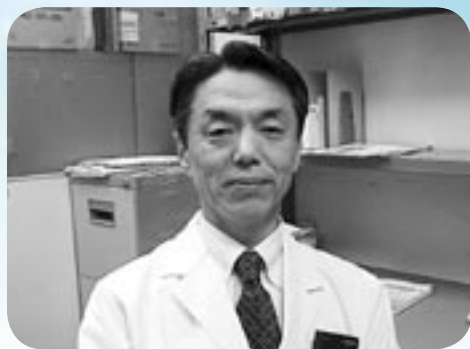
私は消化器癌を専門に研究を行っております。外科医時代には、癌で苦しむ患者様を加療し、病状が軽快していくことを喜びとしておりました。病理医となった今、患者様の笑顔は見えませんが、正しい診断、臨床経験を生かした適切な病理解剖の報告によって、一人でも多くの方が苦しみから解放される日がくることをイメージし、日常業務を遂行しております。しかし、基礎病理の面白いところは、やはり研究にあります。未だすごいといわれる研究はできておりませんが、世界に目を向け、世界に挑戦するつもりで、今後も癌研究に邁進していきたいと思っております。現在、小児科医、産婦人科医、外科医等が深刻に不足していると報道されておりますが、基礎若手研究者や病理医は話題に上らないくらい不足しており、我々は、それどころか絶滅危惧種かもしれません。私と一緒に研究してくれる大学院生、病理医を目指してみようと思われる研修医の先生や学生の方がおられましたら、気軽に研究室を訪ねて下さい。最後になりましたが、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 経歴

1994年 3月 滋賀医科大学 医学部医学科卒業  
1994年 5月 滋賀医科大学医学部附属病院  
第一外科研修医  
1995年 4月 京都第一赤十字病院外科医員  
1997年 4月 国民健康保険能登川病院外科医員  
1999年 4月 滋賀医科大学医学研究科  
(生体代謝調節系) 入学

2001年11月 滋賀医科大学 病理学講座助手  
2006年 4月 英国オックスフォード大学及び  
ロンドン大学留学  
2007年 5月 滋賀医科大学  
病理学講座分子診断病理学部門 学内講師  
2010年12月 滋賀医科大学  
病理学講座分子診断病理学部門 准教授

## 総合内科学講座(地域医療支援)



教授

辻川知之

このたび平成23年1月1日付で、総合内科学(地域医療支援)講座の教授に就任致しました。滋賀医科大学医学部6期生として入学し、在学中は準硬式野球部でクラブ活動に明け暮れましたが、顧問の土井田幸郎先生を始め、多くの良き先輩や同僚、後輩に恵まれました。野球を通じてチームワークの大切さを学んだだけでなく、学年を超えた人脈を築けたことは私の財産となっています。卒業後は第二内科(消化器血液内科)に入局し、細田四郎先生、馬場忠雄先生、藤山佳秀先生ご指導の下、主に消化器診療に携わってきました。私は生まれも育ちも滋賀県であり、今後も滋賀県の医療を支える一人でありたいと考えておりましたところ、滋賀医科大学として地域医療を支えるべく新設された講座の教授を拝命いたしますことは、少し運命的なものを感じながら、大変嬉しく思っております。

総合内科学講座は他の講座と同様、教授以下9人のスタッフを有しながら、その主な診療拠点は東近江市の国立病院機構滋賀病院に置くという滋賀医科大学の中ではユニークな存在であります。特に地方の医療崩壊が叫ばれる昨今、国立大学医学部が地方自治体の協力を得ながら地域医療を支えるあり方の一つとして、各方面から非常に注目されており、うまく軌道に乗せることが私の使命と考えております。

まず診療面では、滋賀病院ですでに活躍されている各先生方や、同じく新設される総合外科学講座(来見良誠教授)とも密接に連携することで、東近江地区のあらゆる患者さんへの初期対応はもちろんのこと、各スタッフの専門性を生かした医療も推進しながら可能な限り東近江医療圏内で医療を完結させるべく準備を進めております。また、教育面では滋賀医科大学初期研修の一環でありながら、従来の臓器別診療科とは異なる全人的な総合医療の研修と、周辺地域医療機関とのスムーズな連携についても学んでもらえるよう、スタッフ一丸となって指導したいと考えております。

しかし、総合内科学講座として今はまだ大枠が決まったに過ぎません。今後も講座の体制面、運用面で様々な課題をこなしながら奮闘努力する所存ですが、何よりも関係各位のご協力、ご支援が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

経歴

1986年 3月 滋賀医科大学医学部卒業  
 1986年 5月 滋賀医科大学第二内科  
 1990年 3月 滋賀医科大学大学院医学研究科修了  
 1990年 5月 財団法人豊郷病院内科医長  
 1992年 7月 テキサス大学医学部留学  
 1994年 9月 公立甲賀病院内科医長

1995年 4月 滋賀医科大学第二内科助手  
 2003年 6月 滋賀医科大学内科学講座(消化器)講師(学内)  
 2006年 10月 滋賀医科大学内科学講座(消化器)講師  
 2011年 1月 滋賀医科大学総合内科学講座(地域医療支援)教授

## 総合外科学講座(地域医療支援)



教授  
来見良誠

平成23年1月1日付で、総合外科学講座(地域医療支援)教授に就任致しました。昭和50年4月に本学の一期生として入学して以来、約35年間滋賀医大の歴史とともに歩んで参りました。この間に国立大学は大きく変化し、独立行政法人となり、これまで以上に社会への貢献を要求されるようになってきました。社会のニーズにこたえ、高度で専門性の高い医療を目指して多くの優れた医師や研究者が育成されてきましたが、最近、新臨床研修システムの導入による医師の偏在、診療科の細分化による総合医の減少などにより、地方都市では医師や研究者の確保が困難な状況になって参りました。このような環境の変化を打破し、大学と地域を活性化する画期的な試みの一つとし

て総合外科学講座が開設されました。

総合外科学講座では、安定した地域医療を実践できるように総合医の育成を図るとともに、医療機関の機能分化や効率化を目指した教育・研究・診療を実践したいと考えています。学部学生に対する臨床実習、研修医に対する卒後臨床研修、総合医を目指す医師に対する地域医療の実践など、これまでに私自身が身につけてきた消化器外科・内視鏡外科・内分泌外科などの従来の外科の領域を凌駕する総合的な外科を行いたいと思っています。

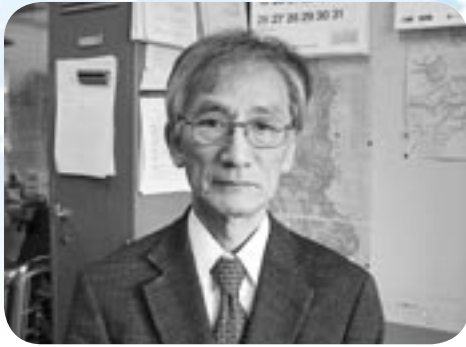
研究テーマは勿論、地域医療の活性化・安定化を目指したものを主体として、IT技術を駆使した総合外科教育や医療情報のネットワーク化を推進し、空間的な過疎化を時間的に短縮する方法論を考案し、山積する地域医療の問題点を、細分化ではなく総合化によって解決する仕組みを構築したいと思っています。未知の領域に挑む気概と責任の重大さを噛みしめながら使命を果たすべく努力したいと思っています。

誰もが望んで研修や教育を受けたいような講座運営を行っていきたいと考えていますので、これからも宜しくお願いたします。

### 経歴

1981年	3月	滋賀医科大学医学部医学科卒業	2002年	10月	滋賀医科大学医学部外科学講座(消化器・乳腺一般外科)講師
1982年	6月	滋賀医科大学医学部附属病院 研修医(第一外科)	2005年	6月	滋賀医科大学医学部外科学講座(消化器・乳腺一般外科)助教授
1983年	7月	岐阜歯科大学(現・朝日大学)附属 村上記念病院 外科医員	2007年	4月	滋賀医科大学医学部外科学講座(消化器・乳腺一般外科)准教授
1987年	12月	滋賀医科大学医学部 第一外科助手	2007年	10月	滋賀医科大学医学部附属病院(消化器・乳腺一般外科)病院教授
1988年	10月	米国ピッツバーグ大学移植外科 留学	2011年	1月	滋賀医科大学総合外科学講座(地域医療支援)教授
1989年	4月	滋賀医科大学医学部附属病院 救急部助手			
1990年	10月	滋賀医科大学 第一外科 助手			
2002年	4月	立命館大学大学院 理工学研究科 客員教授(～現在)			

## 定年を迎えるにあたり



生理学講座（統合生理学部門）

陣内 皓之祐

昭和53年に助手として着任して以来、旧生理学第一講座を初代教授の横田敏勝先生から引継いだ後も、神経生理学を中心とした教育と研究を担当して参りましたが、なんとか無事に停年を迎えることができそうです。この間、公私にわたり、教職員の方々をはじめ、学生諸君、卒業生の皆様にも大変お世話になり、ご指導、ご支援いただきまして誠にありがとうございました。この30数年間は“IT革命”の時代でしたが、神経生理学の分野では動物実験でデータを集める段階で“熟練”とか“職人芸”を要するせいか、他の分野に比べ

てIT化による研究の効率化は鈍く、若い研究者や学生諸君にも人気薄のようです。この状況は道路に例えると科学発展の幹線道路から離れた“田舎道”かもしれません。ところで、本学の北には日本の東西を繋ぐ高速道路と国道1号線が通っており、私も昔は1号線で通勤しましたが今は宇治川～瀬田川を遡り大石と関ノ津の間の峠を越える田舎道を通っています。ご記憶の方も多いかと存じますが数年前に関ノ津の遺跡調査で奈良時代としては異例の幅6mの大道路が発見され、この田舎道が近江と奈良の都を結ぶ当時の主要幹線道路“たわらみち”であると判明しました。幹線道路のコースが時代とともに変化するように学問分野の活性も不変ではあり得ません。この話を“田舎道”が何時しか“幹線道路”ともなり得ることの例え話としてご紹介し、流行に関わらずわが道を行く研究者にエールを送りたいと思います。また、この話からも本学周辺が古くから各時代の経済を左右する重要な地域だったことがわかりますが、この“地の利”を生かして本学が今後も永く発展継続されることをお祈り申し上げます。

キャンパスライフ

## 外国人留学生等の宿泊見学バス旅行

平成22年11月2日(火)及び3日(水)の2日間、飛騨高山及び郡上八幡方面へ外国人留学生等の宿泊見学バス旅行を実施しました。

服部副学長、相浦国際交流支援室長らの引率のもと総勢30名、留学生等は家族を含め9割近くの者が参加しました。

初日は岐阜羽島の太陽光発電施設ソーラーアーク(Solar Ark)と、飛騨高山まつりの森ミュージアムを見学、その後ゆっくり宿の温泉を楽しみました。

2日目は高山陣屋と陣屋朝市散策の後、郡上八幡にある食品サンプル製作所いわさきでの食品サンプル制作体験を行いました。

日本情緒と最新技術を満喫することができ、参加者一同は大満足の宿泊見学旅行となりました。





## 学長と学生との懇談会

充実したキャンパスライフを創るには、学生諸君の意見や要望を聴取し、適切に反映させていくことが重要と考え、学長と学生との懇談会を毎年開催しています。今年度は、平成22年11月9日に看護学科、11月17日に医学科の懇談会を開催しました。また、平成23年1月19日には滋賀県医学生修学資金・滋賀県国保連合会医学生修学資金受給学生との懇談会を開催しました。学生諸君から提起された問題、疑問、要望等の主だった事項は以下のとおりです。これらについては関係部署で検討し既に解決・改善された事項もあります。未解決の事項については引き続き検討して参ります。

### 教務関係 (医学科)

- 1年生のころから医学的な講義をはじめしてほしい。  
医学と関係ないこともリベラルアーツとして学んでおくべきだ。ただし、1年生だけに集中せず、他の学年にも分散していく方向も検討の余地があると考ええる。
- 2年後期の実習について(班の学生数が多いため実習が緩慢となっていると感じる)  
班を少人数にするか、担当教員を充実させたい。また、定員増に伴う教育の質をどう維持するかは今後検討していきたい。
- 少人数能動学習(チュートリアル)を担当される先生の指導法に差がある。  
本来チュートリアルは学生の能動的学習なので、先生による指導というよりは学生自身の取り組み姿勢次第と考ええる。
- 臨床実習と講義を並行してはどうか。  
チュートリアルでそれを目指すつもりであったが、本当にうまくリンクできているのか曖昧なので、検討中である。カリキュラム改正に伴い工夫したい。
- ポリクリで得られた臨床経験が、国家試験のための勉強の期間をはさむことで無駄にならないか。  
CBTとOSCEでスチューデント・ドクターの資格を与え、国家試験の比重を減らし、学生段階での研修と研修医を連続させるのが理想的と考える。しかし、現実には制度上難しい。

### 教務関係 (看護学科)

- 一部の授業でシラパスの内容と実際の講義内容に不一致が見られる。シラパスを充実してほしい。  
不一致のないように対処したい。
- カリキュラムの変更に伴い学習内容に変化があった。コマ数が少なくなり自主学習を求められることが多くなった。また、授業の組み立てがバラバラになっている。カリキュラムの全体構成に配慮するなど各先生方でコミュニケーション(情報共有)を図ってほしい。  
教員からも同様の問題提起があった。改善を図りたい。
- 定期試験日程の発表を早くしてほしい。また、成績・合否・点数の発表も早くしてほしい。  
出来る限り早く発表できるように対処したい。

### 施設運用 関係

- MMCのブラウジング室を24時間使用できるように(土日も)してほしい。  
冬季夜間開放期間を1月4日から2月25日までに延長した。
- 食堂・多目的教室の暖房時間の延長をしてほしい。  
「使い終わったら消す。」これを心がけてほしい。無駄な費用は節約すべきなので、利用具合をみて検討する。
- 多目的教室の夜間使用禁止について(せめて朝6時から開放してほしい)  
盗難防止や安全を第一に考慮して対応を検討したい。
- 基礎研究棟東側と実験実習支援センター1階(南側)扉をカードリーダーで開くようにしてほしい。  
(5・6年生の実習への通路となる)  
要望のあった扉をカードリーダー式にした。
- 看護学科ロッカー室が狭い(通路に立つとぶつかる)。ロッカーが小さい。  
平成23年3月に拡張した。

キャンパスライフ

## 海外自主研修

## ベトナムでの自主研修

医学科 第4学年 齊藤 公亮

私は8月末から9月上旬までの約2週間、ベトナム Choray 病院で自主研修させていただきました。ここでの大変貴重な体験について簡単ではありますが、紹介させていただきます。

## 準備

私がこのベトナム研修に参加を決めたのは、海外自主研修の希望受付締め切りの3、4日前でした。それまで、海外で自主研修をしたいという思いはあったのですが部活との日程で折り合いがつかないという不安があり、なかなか決められませんでした。そんな中、ベトナム研修では日程や研修内容について自分たちで決定できると聞いて、この機会に是非ベトナムで研修させていただこうと決めました。本来4人参加することのできるベトナム研修でしたが、今年は2人ということでお互い何がしたいのか話し合い、昨年研修に行かれた先輩の話を参考にしながら、Choray 病院の Training Department に希望を伝えました。

しかし、今年度から担当の Bich 先生より詳細については Choray 病院到着後に話し合うことになりました。また来年ベトナムに行かれる方にアドバイスなのですが、準備期間はしつこいくらいにメールを送って日程や宿舎について確認をすべきです。私たちはすこし遠慮しすぎてギリギリ(なんと出発前日くらい)になって病院のゲストハウ



スを確認していただきました。連絡を取っていただいた相浦先生、本当にありがとうございました。

## 研修

飛行機が着陸態勢に入り、ホーチミンの街を見下ろすと明らかに日本とは違う東南アジアの情緒が漂っていました。タンソンニャト国際空港に到着し、わくわくしながら空港を出ると、出迎えの人人人!!ここで大丈夫かという不安が一気に芽生えましたが、すぐに僕たちの名前を書いた紙を掲げたスタッフの方を見つけることができました。そこには、日本語が流暢な看護師の Hien さんがいらっしゃったので病院までの車中とてもリラックスして過ごすことができました。早速 Training Department でオリエンテーションを受け、研修の内容について肝臓腫瘍外科と脳神経外科を回ることに決まりました。その後病院のゲストハウスを案内していただいたのですが、部屋に入ってびっくり、ダブルベッドが1つ。思わず2人で顔を見合わせました。例年はこのようなことは無いようなのでご安心を。そんなこんなで1日目過ぎ、翌朝より肝臓腫瘍外科で主に肝細胞癌のオペや、経皮的局所療法(RFAなど)を見学させていただきました。1週間見学し続けましたが、いかにベトナムで肝癌が問題になっているか



教えていただき、深く考えさせられる日々でした。次の週より、頭部外傷を学ぶために脳神経外科を見学させていただきました。ベトナムでの交通手段はバイク、原付が主なため（30分で3000台が通る）交通事故が多く、多くの患者で溢れかえっていました。この光景は野戦病院さながらでおそらくどの日本人が見ても衝撃を受けると思います。夜間は、オペをたくさん見学することができましたし、顕微鏡手術の器械を使うこともできたりして非常に有意義に過ごすことができました。

### 研修生活

肝臓腫瘍科では朝7時に集合しカンファレンス、そしてそのまま屋台で朝ごはんをご馳走になることが多かったです。（これがとても美味しい！）病棟に戻ると回診、オペなどを見学します。昼過ぎになると、自由時間になるので病院の3階（ベトナム表記では2階）にある図書室でレポートを作成したり調べ物をしたりして過ごしました。脳神経外科では夜型の研修になります。そのため、調べ物や医学英語の勉強は午前中にして仮眠などをとってから病棟に向かいました。いずれの科のスタッフの方も非常に親切に迎えてくださり、研修で困ることはほとんどありませんでした。また肝臓腫瘍科では週末に飲み会を開いてくださりすぐにベトナムが大好きになりましたし、後半研修させていただいた脳神経外科にいらっしゃった筑波大学の中村先生にはほぼ毎日のようにお世話していただき感謝でいっぱいです。

### オフの生活

おそらくベトナム研修ほど、オフを楽しめる研修はないでしょう。僕たちは、メコン川下り、クチトンネル（ベトナム戦争時のもの）、戦証博物館、サイゴン川クルーズや市場でショッピングなどベトナムを満喫



することができました。また、中村先生や、ボランティアの西本さんら日本人とご飯をご一緒させていただいたり、沢山の知り合いを作ることができてベトナムから帰国するのが名残惜しいくらいでした。

最後になりましたが、このようなすばらしい研修の機会を与えてくださった相浦先生、ベトナムでの生活をサポートしてくださった Training Department の Bich 先生をはじめスタッフのみなさん、Hien さん、各科の先生方、中村先生、西本さん、そして共に研修し2週間ダブルベッドですごした西地、全ての人に感謝しています。本当にありがとうございました。



## ケニア自主研修を通して感じたこと

医学科 第4学年 角田 秀樹

この約3週間の研修の中で僕たちはさまざまな地域を訪れ、いろいろな経験をさせていただきました。ケニアはHIVの陽性率が8パーセント、日本の800倍もの陽性率なのですが、その中でもさらに陽性率の高いビクトリア湖岸の地域を訪れ、実際にそこで働く日本の人々の話を聞いたり、病院を見学したりしました。また、長崎大学の熱帯研究所のマラリア採取のフィールドワークに同行させていただいたり、CHILDDOCTORという



NGOで実際にケニアで女医として働く先生にお話を伺ったり、アフリカで2番目に大きいスラムを見学したり、ケニアで最先端の医学研究施設を見学したり・・・他にもさまざまな体験をし、いろんなことを考えました。

今日はその中でも印象に残ったケニア、中でもビクトリア湖岸でのHIVのこと。また、NGOやスラムを訪れる中で感じた国際貢献の難しさについて書きたいと思います。

上でも書いたようにケニアのHIV陽性率はとても高く中でもビクトリア湖岸の農村部ではさらに高くなっています。ケニアにはいたるところにVCT (voluntary counseling and testing) という施設が存在します。VCTは無料でHIV検査、カウンセリングを行っています。僕たちも実際に何か所か訪問しました。病院の中にVCTが入っていたりします。治療薬も無料、もしくは安価で患者に提供されます。

しかし、HIVは性が絡む問題なので難しい面があります。検査結果で陽性だと知った人はすぐにパートナーにその結果を伝えるべきです。しかし、実際には結果を伝えるとパートナーとの関係を解消されたり、社会的に冷たい仕打ちを受けることもあり、検査を受けてもその結果を秘密にしたり、自分がHIV陽性ではないかと思っても受けに来なかったりします。僕たちが訪問した

VCTのカウンセラーが言っていたのですが、夫が妻の首をつかんで「こいつを検査してくれ！もし陽性だったら今すぐ縁を切ってやる」と乗り込んできたこともあったそうです。

ビクトリア湖岸のような農村部でHIVが流行る理由についても現地で働くJICAの協力隊員である風間さんからいろいろと話を聞くことができました。農村部では都市部とは違い、性行為の他に娯楽となるようなものがないということ。あるいは伝統的に避妊具をつける習慣がないこと、例えば避妊具をつけるように指導をすると指導された人の中には「おまえは服を着たまま風呂に入るのか」と切り替えしてくる人もいるみたいです。こういった考えを持つ人々にHIV予防のための避妊を指導することは大変難しいのだろうなと思いました。

またひとつ驚いたことがあったのですが、ケニアではHIV陽性の妊婦に対し、多くは母乳での保育を推奨しています。母乳にもHIVウイルスは当然含まれるので、日本では人工乳で乳児を育てます。これはなぜかというケニアではそもそも、きれいな水や食べ物が手に入りやすく、乳児が感染症などに罹患しやすいからです。つまり、汚い水で溶いた人工乳を飲むよりは、多少ウイルスが含まれている母乳を与えた方が、乳児の死亡率を下げるということです。日本では医学的に

キャンパスライフ



当たり前なことでもケニアの整備されていない環境では当然でなくなるということに衝撃を受けました。

次に国際貢献についてです。CHILDDOCTORさんを訪問した際にスラムに住む人にインタビューをする機会があったのですが、そこで「あなたが今一番必要としているサポートは何か」と質問すると、「家賃と学費と食べ物」と言っていました。きれいな水も満足に手に入らない環境では当然の答えだと思います。しかし、同時にもし、海外や政府からそれらが提供されても根本的な解決にはならないとも思いました。サポー

トは永遠に続くわけではないし、ケニアは自立していかなければならないし、支援は長期的にケニアの自立を促すようなものであるべきだと感じました。例えばお金だけ渡しても本当にそのお金が現地の人のためになっているのでしょうか。現地の人々に実感される形で還元されているのでしょうか。もしかしたらケニアの裕福層をさらに潤わしているだけかもしれないし、他のNGOとの競争などにより、浪費されているかもしれません。あるいは薬は足りているが、正しく配分されていないかもしれません。僕が現場で実際にそのような光景を目にしたわけではないのですが、ケニアで働く人から話を聞いたり、貧富の格差を目の当たりにした時にこういったことを感ぜずにはいられませんでした。単なる自己満足ではなく、本当に現地の人のためになるようにサポートを行うことは決して簡単なことではないのだと感じました。

今回このような機会を得て、日常とは全く違う世界を感じ、ボランティアや国際保健についてほんの一部ですが、自分なりの視点を持てるようになったと思っています。お世話になった先生方、ケニアの人々に感謝の気持ちでいっぱいです。



## Being in Boston

医学科 第4学年 河野 浩人

この研修がどこから始まったか、それは多分新京極の雑貨屋でお守りを買ったところから始まります。私が勝手にお守りだと思っているだけで、実は何の効力も保証はされていないこの小さなブロンズ像は、値が張りました。この買い物と寓話は一見無駄に思えますが、今回の研修の全ての場面での成功を導いたと私は強く信じています。

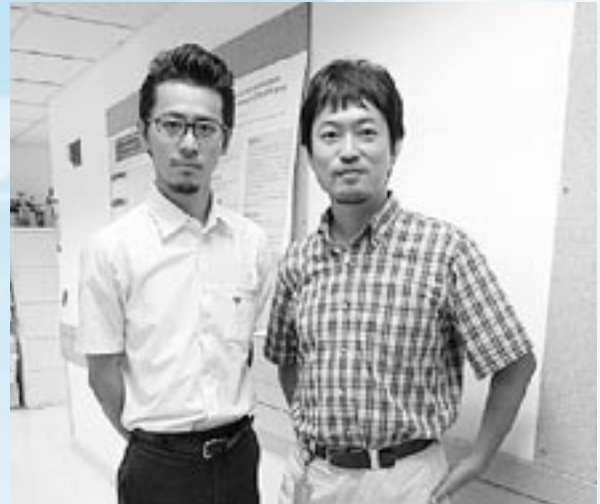


勿論ボストンまで連れて行きました

Dr. Moskowitzは私がお世話になったlabを率いるボスで、脳虚血や偏頭痛の世界的権威です。今はすっかり丸くなったようですが、若かりし頃の彼の口癖は‘How's your date? (実験結果はどうなってる?)’だったそうで、その厳しさが如何ほどだったかを物語っています。私にはレッドソックス戦のチケットをただでくださった優しい方でした。



滋賀医科大学出身で現在は京大の脳外科におられる早瀬先生は、私が滞在中にもっともお世話になった方の一人です。ご自身の研究時間を割いてまで、親身になって色々と教えてくださいました。気さくながらも所々にプロフェッショナルを感じさせる立ち居振る舞いは、海を渡った侍を思わせ、私は‘学ぶ’という行為の崇高さを知りました。



私が行った頃のボストンはちょうど季節の変わり目で、少しずつ秋の匂いを増している頃でした。大学の街として有名なボストンは、秋から始まる新しい学期を前に世界中からの学生で活気付いていました。私を知り合った数カ国の学生達は、こちらが気圧されてしまう程の情熱を携えており、勉学を見据えて輝く眼がとても印象的でした。





ボストンを描いた絵（その1）

私の研修はその殆どが人との出会いに終始しました。お世話になった方は数知れず、多くの人に勉学の道を歩むことの大切さを教わりました。例えば Dr. Karim は Harvard の lab でヒストンについて研究しており、彼からは研究の世界の厳しさと魅力について知りました。ある日突然首になることもあるアメリカの研究者について、彼や彼の同僚は楽しげに語ってくれましたが、そこにはポジティブに真摯に真剣に研究しなければならない彼らの姿が垣間見えました。彼らと一緒に過ごした時間は短くも大切な思い出として今回の研修のお土産になりました。また私の絵をきっかけに知り合った Dr. Sujatha は、同じく Harvard で働く研究者で、ショウジョウバエを用いてアポトーシスの研究をしていました。「あなたの研究が知りたい。」と言うと、少々訛った英語で懇切丁寧に教えてくださいました。今でも彼女とは連絡を取る仲ですが、子育てに研究にとパワフルに活動しているようです。それと忘れてはならないのが Dr. Moskowitz の lab で研究していた Dr. Qiu。彼は東京大学にも所属していたことがある



ボストンを描いた絵（その2）

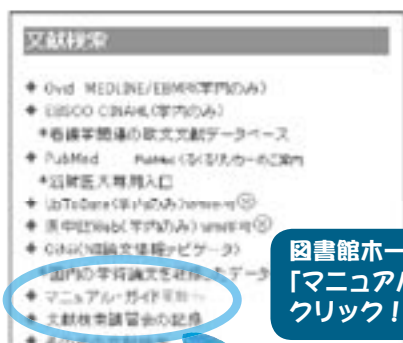
そうで、研究の話は英語を、同僚に聞かれてはまずい話は日本語を使って話してくれました。彼が日本語で話せるおかげで、世界のトップにいる研究者達の間臭さ（裏話）にも触れることができました。それ以外にも Dr. Karim の同僚でちょっと悪印象の Dr. KJ、免疫機構のカスケードを研究している Dr. Mora など、私の研修を実り豊かなものにしてくれた方がたくさんいました。そうやって人に感謝していると、研修を実現に導いてくれた野崎先生や研修費を助成くださった藤原よしみ奨学金、そして渡航費を捻出してくれた家族など、自分がどれほど多くの人に支えられているかがわかってきました。これからも感謝の気持ちを忘れずに勉学に励む、今のこの思いが研修の一番の成果かもしれません。

# マニュアル・ガイドを公開しています

PubMed・医中誌 Web など文献データベースの検索や電子ジャーナルの利用で困ったことはありませんか？

図書館では、提供している文献データベースや電子ジャーナルについて、各種利用マニュアルを図書館ホームページにて公開しています。チュートリアルや病院実習の課題・卒業論文の作成などで効率よく文献収集するために、ぜひご参照ください。

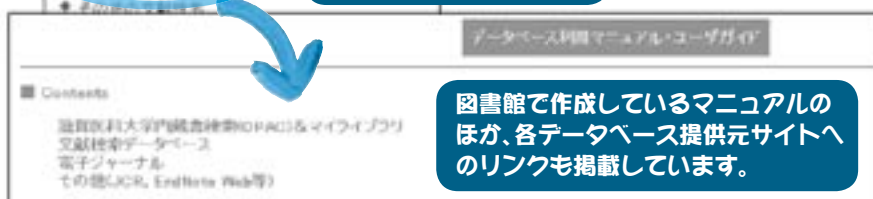
そのほか、文献データベースの基本検索・電子ジャーナルの利用方法をご紹介する「ぷち講習会」を定期的開催しているとともに、カウンターでも随時質問を受け付けています。



図書館ホームページの「マニュアル・ガイド」をクリック！

## 図書館ホームページ URL

<http://www.shiga-med.ac.jp/library/>



図書館で作成しているマニュアルのほか、各データベース提供元サイトへのリンクも掲載しています。



これらのマニュアルは、ご自宅からでもアクセス可能です。



# NEW 講習会の内容を動画配信!

平成 23 年 1 月 27 日・28 日に開催した「EndNote Web 利用講習会（初級編・中級編）」に参加できなかった方のために、マルチメディアセンターの「ストリーミングサービス」を利用し、講習会内容を動画で配信しています。**初級編＝約 60 分、中級編＝約 50 分**です。学内 LAN に接続できるパソコンであれば、福利棟・研究室・医局などどこからでも視聴することができます！図書館ホームページ「マニュアル・ガイド」のリンクからご利用ください。（VPN 接続は不可）

また、ご自宅で利用できるよう DVD も作成しました。貸出を希望される方は開館時間内に図書館カウンターへお越しください。

今後も皆様からのご要望に合わせて講習会を開催したいと考えています。ご希望のデータベース、開催時間などお気軽にご相談ください。

**「その他(JCR, EndNote Web 等)」クリック**

その他の  
 JCR : Journal Citation Reports on the Web  
 ● JCR概要 [PDF / トムソン・ロイター]  
 ● JCR閲覧マニュアル (雑誌検索編) [PDF / 滋賀医科大学附属図書館] (2008.6)  
 ● JCR閲覧マニュアル [PDF / 滋賀医科大学附属図書館] (2008.6)  
 ● JCR利用マニュアル [PPT] (2007.7)  
 ● インパクトファクターの調べ方 (ダイジェスト版) [PDF / トムソン・ロイター]  
 ● インパクトファクターFAQ [トムソン・ロイター]

EndNote Web  
 ● EndNote Web 利用講習会(初級編) [動画] (約60分 / 滋賀医科大学附属図書館) (2011.1) 09/05/2011  
 ● EndNote Web 利用講習会(中級編) [動画] (約50分 / 滋賀医科大学附属図書館) (2011.1) 09/05/2011  
 ● EndNote Web 閲覧マニュアル(基本編) [PDF / 滋賀医科大学附属図書館] (2010.1)  
 ● EndNote Web 検索ガイド [トムソン・ロイター]  
 ● クイックツアー・EndNote Web (文献管理ソフトウェア)の方法 [トムソン・ロイター]  
 ● 閲覧マニュアル [PDF / トムソン・ロイター]  
 ● クイック・リファレンス・カード [PDF / トムソン・ロイター]

**各種利用マニュアルと合わせてご覧ください。**

利用マニュアル・講習会動画に関するお問い合わせ先：附属図書館情報サービス係  
 TEL : 077-548-2080 E-mail : hjjouser@belle.shiga-med.ac.jp

平成22年度に学位記(博士)(修士)を授与された者の中から、特に優秀な学位論文を発表した3名に、3月10日(木)の学位授与式において馬場学長から表彰状と副賞が授与されました。

また、学長奨励賞・滋賀医科大学シンポジウムの各賞・ベストティーチャー賞・優秀研究者・社会貢献・Doctor of the Year,2010の各賞の受賞者に表彰状と副賞が授与されました。

## 博士論文学長賞

受賞者名 武内美紀  
論文題目 Glyoxalase-I is a novel target against Bcr-Abl+ leukemic cells acquiring stem-like characteristics in hypoxic environment (低酸素環境により幹細胞様形質を獲得したBcr-Abl陽性白血病細胞に対する、Glyoxalase-Iの新規治療標的としての有効性)

受賞者名 貝田佐知子  
論文題目 Visible-drug delivery by supra-molecular nanocarriers directing to single-platformed diagnosis and therapy of pancreatic tumor model (単一プラットフォーム上に診断薬と治療薬を搭載した超分子ナノキャリアによる可視化ドラッグデリバリーの、膵癌モデルを用いた評価)

## 修士論文学長賞

受賞者名 土川祥  
論文題目 分娩後の骨盤底弛緩に対する縦断的介入研究－骨盤底筋体操とサポート下着の比較－

## 学長奨励賞

受賞者名 南佳ほり  
論文題目 DNMT3L is a novel marker and is essential for the growth of human embryonal carcinoma. (DNMT3Lはヒト胎児性癌に特異的な新規マーカーであり、胎児性癌の増殖に必須である)



## 第27回 滋賀医科大学シンポジウムの各賞

若 鮎 賞 池 田 瑞 穂  
審査員特別賞 新 井 啓 仁  
奨 励 賞 土 川 祥

## ベストティーチャー賞

病理学講座 分子診断病理学部門 准教授  
向 所 賢 一

## 優秀研究者

内科学講座(腎臓内科) 非常勤講師  
久 米 真 司

## Doctor of the Year,2010

医師臨床教育センター  
所 伸 介



## 社会貢献

医師臨床教育センター  
岩 松 芙 美

# 第36回 若鮎祭収支決算報告書 第36回若鮎祭実行委員会

■監査報告 第36回若鮎祭の会計監査を行ったところ、適性かつ正確に運営されていたことを報告します。

第35回若鮎祭実行委員会委員長 近藤 享 史

## 【収入の部】

(単位:円)

近江八幡蒲生郡医師会より	¥10,000		
大津医師会より	¥50,000		
草津・栗東医師会より	¥30,000		
甲賀湖南医師会より	¥10,000		
湖北医師会より	¥10,000		
滋賀医科大学医師会より	¥60,000		
滋賀県医師会より	¥50,000		
東近江医師会より	¥10,000		
彦根医師会より	¥10,000		
守山・野洲医師会より	¥20,000		
和仁会より	¥200,000		
滋賀医科大学医学部後援会より	¥300,000		
滋賀医科大学看護学科後援会より	¥150,000		
滋賀医科大学同窓会「湖医会」より	¥200,000		
学外寄付	¥140,000		
学内寄付	¥1,632,000		
滋賀医科大学学生課より	¥133,217		
滋賀医科大学学生自治会より	¥1,600,000		
滋賀医科大学体育会より	¥1,200,000		
滋賀医科大学文化会より	¥60,000		
総務局 模擬店出店料	¥360,000	¥360,000	
広告局 パンフレット広告掲載料	¥1,802,893	¥1,802,893	
広報局 学祭パーカー売上げ	¥1,254,900	¥1,254,900	
	緑日売上げ	¥8,100	
企画局 食堂ものづくり売上げ	¥45,400	¥75,250	
	ソフトボール・フットサル参加費		¥7,000
	フリーマーケット売上げ		¥14,750
計		¥9,368,260	
前年度繰越金		¥3,720,614	
総計		¥13,088,874	

## 【支出の部】

(単位:円)

事務局	事務用品購入費	¥172,654	¥2,087,406
	生協物品購入費	¥229,452	
	郵送・通信費	¥8,610	
	口座振替等手数料	¥2,730	
	滋賀県大学祭連盟活動関係	¥2,760	
	保険料	¥63,185	
	講演料:今井志保子先生	¥111,050	
	執行部企画関係費	¥203,158	
	発電機レンタル料	¥542,850	
	トラックレンタル料	¥35,682	
	フィナーレ関係費	¥700,525	
	国境なき医師団への寄付 (フリーマーケット売り上げ)	¥14,750	
総務局	衛生関係費	¥28,531	¥58,536
	警備関係費	¥3,120	
	物品・設備費	¥26,885	
広告局	交通費	¥14,668	¥118,577
	郵送・通信費	¥103,909	
広報局	学祭パーカー製作費	¥726,712	¥1,427,806
	パンフレット製作費	¥598,902	
	PR関係費	¥102,192	
	事務用品購入費	¥3,020	¥1,212,503
	装飾関係費	¥35,876	
	郵送・通信費	¥1,986	
企画局	巨大迷路	¥60,039	
	講演料:小澤竹俊先生	¥100,525	
	講演料:水谷修先生	¥350,525	
	講演会準備費	¥35,816	
	スタンプラリー	¥44,404	
	ふれあい動物園	¥367,710	
	野菜販売	¥9,840	
	遊び場コーナー	¥1,009	
	占いブース	¥11,480	
	似顔絵ブース	¥13,200	
	ものづくりコーナー	¥5,276	
グラウンド企画	ソフトボール・フットサル	¥10,000	
	緑日	¥33,021	
	キスマークアート	¥6,423	
	写真コーナー	¥3,179	
	ダンスショー	¥60,000	
	バルーンアート	¥19,793	
多目的教室 企画	献血活動	¥6,125	
	はじめてのコスプレ	¥9,656	
	VIVAコーナー	¥23,600	
事務局	事務用品購入費	¥25,588	¥3,967,130
	ステージ設営費	¥2,300,525	
	あなたの彩はどんな彩?	¥6,119	
	うたへた	¥2,880	
	演舞	¥11,400	
	お笑い運コロシアム	¥23,891	
	お笑いLIVE	¥1,383,046	
	紙飛行機飛ばし大会	¥5,485	
	筋肉番付_大胸筋に問 いかけろ_	¥4,969	
	ケイトLIVE	¥60,000	
	原石を探せ	¥9,152	
	魁!!男塾	¥6,700	
	三輪車レース	¥9,325	
	滋賀医相撲大会	¥10,077	
	滋賀医の平均人間	¥5,308	
	じゃんけん大会	¥3,700	
	スマブラ大会	¥7,799	
	そっくりさん in SUMS	¥5,484	
	大学デビュー	¥5,869	
	ビンゴ大会	¥47,889	
	フィナーレ	¥3,660	
	♂フェロモン対決	¥5,724	
	マニアック〇×クイズ	¥4,404	
	King of Entertainer	¥1,960	
	LIVE ART	¥1,291	
	Mr. & Miss.	¥14,885	
計		¥8,871,958	
前年度繰越金		¥4,216,916	
総計		¥13,088,874	

## 平成22年度 研究動物慰霊式を実施

去る11月9日(火)午後3時から、滋賀医科大学研究動物慰霊碑前において平成22年度研究動物慰霊式が執り行われました。

慰霊式には、学長、副学長をはじめ100名余りが出席し、出席者全員による黙祷を行った後、動物生命科学研究センター長の鳥居隆三教授、利用者会議議長の相見良成准教授より慰霊の辞が述べられました。

その後、出席者全員による献花が行われ、過去一年間(平成21年10月～平成22年9月)に実験に供された動物の御霊の冥福を祈りました。



## 学生入試広報スタッフ募集

本学の魅力を、あなたの声で、伝えてみませんか？  
 広報活動に関心のあるボランティアによる  
 「学生入試広報スタッフ」を求めます！！



### 学生入試広報スタッフの活動内容

1. オープンキャンパスにおける、学生相談コーナーでの相談員
2. オープンキャンパスにおける、学内施設案内
3. 入試説明会（入試ガイダンス）における、学生相談コーナーでの相談員
4. 高校訪問における、卒業生から大学紹介
5. 「ホームページ」や「大学案内」（在学生からのメッセージ）原稿作成
6. 出身高校訪問による広報活動（夏休み等を利用し入試広報を行う。）

#### ■ 応募資格

- ・ 本学学部学生であること（学年は問いません）
- ・ 勉強と両立しながら学生入試広報スタッフとして良識ある行動をとれること
- ・ 本学の入試広報活動方針を理解し、その方針に反しない行動をとれること

#### ■ 登録受付期間

随時受付を行います

#### ■ 登録の方法

学生ボランティア申込書(入試室にて配付)にて申込を行っていただき、登録させていただきます

#### ■ お問い合わせ先

滋賀医科大学学生課入試室 入学試験係  
 Tel.077-548-2071  
 e-mail hqnyushi@belle.shiga-med.ac.jp



SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE  
**勢多だより**  
MAR 31, 2011

## 編集後記

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆さまとそのご家族に心よりお見舞い申し上げます。

医学科31回生と看護学科14期生の卒業式の翌日、この未曾有の大地震が日本を襲いました。全国各地から医師・看護師が派遣され、現地で復旧にあたる多くの方々とともに、災害直後から被災者の救護や健康管理の支援を行っています。

滋賀医科大学も災害派遣医療チームの結成や義援金の取りまとめなどを行い、被災地での直接支援および後方支援に全力で取り組んでいます。

今後の復興のためには、ひとりひとりが自身の社会的責務を果たすことがこれまで以上に求められます。滋賀医科大学を巣立った皆さんがそれぞれの活躍の場で研鑽を積み、与えられた能力を十分に開花させ、日本の復興を支える大きな力となってくださることを願っています。

被災された皆さまが一日も早く日々の落ち着いた暮らしを取り戻せるよう、心からお祈り申し上げます。

編集委員長 宮松 直美

## (勢多だよりの由来)

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢(いきおい)が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせず、あえて勢多とした。

(題字は、故 脇坂行一初代学長による)

勢多だより No. 89

発行年月日：平成23年3月31日

編集：「勢多だより」編集担当者会議

発行：滋賀医科大学広報委員会



# 滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

## 学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。  
「中心に向かって、外からさざ波の波動－これは人の医への期待である。外に向  
かって中心から一隅を照らす光の波動－これは人々の期待に返す答えである」。